

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第8号】 2012年5月2日発行

岩手県大船渡市と立命館大学 災害復興の連携協力に関する 協定を締結

4/24、大船渡市と立命館大学の間で、災害復興に向けた連携協力に関する協定を締結しました。

この協定は、大船渡市の災害復興に向け、立命館大学と大船渡市が連携協力して地域や社会の復興、人材育成等に取り組むことを目的としています。

大船渡市と立命館大学の間では、これまで、昨年2月より、スポーツ健康科学部の教員や学生が大船渡市内の中学校において体力測定やトレーニングプログラムのレクチャーを実施（平成23年度文部科学省「復興教育支援事業」に採択）。また昨年12月には、プロ野球選手会と連携したベースボール・キャラバン in 岩手の開催といった様々な災害復興支援活動を協働して進めてきた経緯があります。

またこれらの取り組みの実施と、大船渡市との関係性構築においては、岩手県および大船渡市在住の立命館校友との強いネットワークにも支えられてきました。

この協定締結により、災害復興支援室では、大船渡市との連携協力を通して学生の学びや教員の研究の場をさらに広げていき、多様な支援活動を通じて大船渡市の復興に貢献するよう努めてまいります。



立命館大学と大船渡市との「災害復興に向けた連携協力に関する協定締結」について

締結日：2012年4月24日（火）
場所：大船渡市役所 議員控室(2階)
締結者：

- 大船渡市 市長 戸田 公明
立命館大学 学長 川口 清史
- 連携協力の内容
- (1) 教育・研究、文化・スポーツを通じた復興支援
中学生を対象とした運動・健康支援（スポーツ健康科学部の文部科学省・復興教育支援事業）仮設住宅の中高齢者を対象とした運動・健康支援、など
- (2) 復興支援を通じた学生・市民の連携および交流
「後方支援スタッフ」等のボランティアバスによる学生派遣 など
- (3) 災害復興を担う人材育成
本学の各種教育プログラムの活用、提供、など
- (4) 災害復興に関する施策への助言
地域の要望を受けた専門的見地からの研究者による助言・支援、など

【大船渡レポート】

今春、立命館大卒業生が

大船渡市新採用職員として入職

福岡県古賀市出身で、2011年度立命館大学産業社会学部卒業の平野桃子さんが、この4月から大船渡市職員として採用され、商業観光課観光係で勤務されています。

平野さんは昨年8月に大船渡市盛町で行われた「灯ろう七夕まつり」での復興支援のボランティアに参加したことをきっかけに市職員試験への挑戦を決意。今年の新採用職員は17名のうち15名が市内出身者で、他の1名の方も宮城県出身ということで、今年度の東北エリア外からの採用者は平野さん一人という状況とか。

平野さんが大船渡で就職するに至った詳細のお話は、近日中に大学ホームページ「+Rな人」コーナーで公開予定です。

【募集】後方支援スタッフ派遣 に伴う教職員引率について

災害復興支援室では、2011年度から開始している東北被災地へのボランティア派遣企画「後方支援スタッフ」派遣の引率担当者について、学内の教職員を対象に協力者を募っています。

この引率は業務としての位置づけでご参加いただけます（4月12日部次長会議で提起）。引率業務は、学生たちと寝食を共にし、被災された方々に寄り添う経験を通して、教職員としても成長できる貴重な機会です。

引率に参加したいと考える職員の方は、災害復興支援室までまずはご相談ください。所属部課とご相談の上、業務としての参加に向け調整をさせていただきます。
<問合せ先> 災害復興支援室 担当：戸田（内線 510-2076）

【後方支援スタッフ派遣】

今後の予定

- 第7便
5/2(水) 夜京都発-5/7(月) 早朝京都市
岩手県宮古市での活動を実施
*学生エントリー受付終了
- 第8便
5/17(木) 夜京都発-5/22(火) 早朝京都市
岩手県宮古市での活動を予定
*学生エントリー受付終了
- 第9便
6/14(木) 夜京都発-6/19(火) 早朝京都市
- 第10便
6/28(木) 夜京都発-7/3(火) 早朝京都市

後方支援スタッフ派遣の最新情報

- [HP] <http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>
- [facebook] [facebook.com/fukkoR](https://www.facebook.com/fukkoR)
- [twitter] @fukko_R

産業社会学部金山ゼミ学生

「Campus新聞大賞 /

日本財団賞」受賞

SANKEI EXPRESS 編集部が半年に一度、優れた記事を作成した大学生たちを表彰する「Campus新聞大賞」の第3回大賞/日本財団賞に、産業社会学部金山勉教授のゼミに所属する学生たちが取材、編集し記事「被災地のラジオが教えてくれたこと」(SANKEI EXPRESS2/7、14掲載)が受賞しました。

記事のなかでは、金山ゼミ学生たちが、東日本大震災においてラジオがどんな役割を果たすかをテーマに取材するなかで、被災地の想像を絶する厳しい現実を目の当たりにしたことで、企画の中止をすることもあったという状況もレポートされています。しかし、ラジオは被災された方々に必要な情報を伝えるだけでなく、人々を勇気づけ、心の支えにもなったのではないかと、人々を結び「ラジオの力」を信じ、数度にわたる取材が続けられました。

受賞した学生たちからは「被災者のみなさんへの取材を通じて、あれこれ頭で考えるだけでなく、被災地に出向き、現場を自分達で取材することで事実と向き合うことの大切さがよくわかり、また長期的に被災地復興に役立つことを考えていきたい」とコメントが寄せられています。



4/17,24 立命館高校

理工学部教員による

放射線基礎講義の実施

災害復興室では放射線に関わる取り組みとして、慶應義塾大学の「地球環境スキニングプロジェクト」に参加し、朱雀キャンパスにおいて放射線測定を開始しています。

その後、昨年度2/29、まず理工学部教員、立命館高校ならびに災害復興支援室による懇談を実施した結果、放射線に関する基礎知識が必要との認識を共有し、4/17、4/24の2回にわたり、立命館高校SSコースの1~3年生約100名を対象に教員による講義(90分)が実施されました。

第1回目(4/17)の講義では、原子・原子核の構造を学び、物質は何でできているのか、また放射線とは何か、なぜ出るのか等、原子核と放射線について基本的なところを学びました。

続いて、第2回目(4/24)の講義では、実際に放射線測定器を利用し、放射線のスペクトル測定実演が行われました。

今後はSSH研究として、生徒たちによる定期的な測定実施も含め、継続的な取り組みを計画中です。



地球環境スキニングプロジェクトについて
<http://radiation.yahoo.co.jp/faq/>

これからの主な取り組み

国際平和ミュージアム2階ミニ企画展示「わたしたちができること」
震災後の1年を振り返る学生企画の展示です。

- <第1期> 4/20(金)~5/20(日)
「スリランカの贈り物~平和の祈りの木を咲かせよう~」
主催団体: Happy Factory
- <第2期> 5/26(土)~6/17(日)
「震災から一年。気仙沼から同世代へ」
主催団体: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
- <第3期> 6/23(土)~7/15(日)
「被災者×ボランティア?いいえ、宮城のおっちゃんおばちゃんども×京都の学生」
主催団体: NPO 法人国際ボランティア学生協会 IVUSA

国際平和ミュージアム 開設20周年記念「放射能と人類の未来」中野記念ホール
放射能を「知る」放射線を「防ぐ」放射能を「教える」という視点から、放射能や被ばくについての基礎知識、原子力の利用や原子力発電所をめぐる歴史を展示。5/15(火)~7/27(金)
<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

立命館災害復興支援基金

2011年度報告書を発行

2011年3月11日以降、立命館では教育研究機関としての復興支援への貢献を検討するなかで、立命館災害復興支援基金の設立と、教職員による研究等への支援のほか、被災した学生への経済支援や、学生が取り組む復興支援活動の支援を行ってきました。今回、2011年度の取り組みの総括として、基金への寄付に協力している学園の教職員への報告書を発行しました。

報告書には、2011年度中に実施した計6便の後方支援スタッフ派遣のレポートの他、基金による経済支援を受ける学生たちのメッセージを掲載しています。

報告書は、寄付を下さっている教職員の他、4月末に各課に回覧資料配布を実施しています。ぜひご覧下さい。

【お知らせ】

国際平和ミュージアムにて

震災1年の企画展示を開催

立命館大学国際平和ミュージアムでは、4/20から7/15までの期間、2011年3月11日に起きた東日本大震災を受けて「自分たちに何ができるのか?」を考え、それぞれの立場から活動した立命館大学生の取り組みを紹介する連続企画を開催中です。

展示は、スリランカや、宮城県の気仙沼の被災地で活動した学生たちの手で作成され、期間中を3期にわけ展示が行われます。

詳細は国際平和ミュージアムのホームページでご確認ください。

編集後記

立命館高校の学生と一緒に教員の放射線測定講義におじゃましてきました。講義の始まりには、起立、礼、「よろしく申し上げます!」、そして同様に講義の終わりには、起立、礼、「ありがとうございました!」の掛け声。とても懐かしく、新鮮で、でもなんだか気の引き締まる思いがしました。日頃何気なくしている挨拶ですが、たまには大事ですね。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第8号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130 (総合企画課内)

311fukko@st.ritsumeai.ac.jp

<http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>